

平成30年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

大阪教育大学附属高等学校平野校舎

1 附属高等学校平野校舎の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属高等学校平野校舎

(2) 所在地

大阪市平野区流町2-1-24

(3) 学級数・収容定員

9学級（1学年3学級） 収容定員360人（1学級40人）

(4) 幼児・児童・生徒数

357人（男子157人・女子200人）

(5) 教職員数

校長(併任)1、校舎主任1、副校長1、主幹教諭1、教諭22(うち任期付教諭4)、養護教諭1、中学校併任教諭3、非常勤講師11、ALT2、事務職員5(専任1、事務補佐員4)、用務員1

2 附属高等学校平野校舎の特徴

1学年3クラスの小規模校である特徴をいかし、自主自立の精神を基盤に生徒一人ひとりの個性を伸ばし、幅広い学力の向上を目指す。文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール」に指定され、課題解決力等の育成を目指すカリキュラムとあわせて、グローバルリーダーに必要な資質能力の育成に取り組んでいる。

3 附属高等学校平野校舎の役割

- (1) 大阪教育大学と連携し教育研究に取り組むとともに、平野五校園の共同研究を進める。
- (2) 本学の教育実習機関として実習生を受け入れ、適切な指導を行う。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てる。
- (4) 本学が行う現職教員の再教育の一端を担う。

4 附属高等学校平野校舎の学校教育目標

- (1) 学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成
- (2) 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成

5 附属高等学校平野校舎の学校教育計画

○教育目標

幅広い教養と、課題解決力やコミュニケーション力・多文化理解力・セルフマネジメント力等の国際的素養を身につけ、主体的に行動できるグローバルリーダーの育成に取り組む。

○30年度重点目標

- (1) 小規模校の特徴をいかした教科指導の充実と生徒の学力の向上
- (2) SGHカリキュラムにおける指導の充実と成果の発信（教科・総合的な学習の時間・特別活動をとおした課題解決力・コミュニケーション力・多文化理解力・セルフマネジメント力の育成）
- (3) 進路指導の充実による将来に向けた夢と志の醸成
- (4) 生徒会活動・学校行事等をとおした協調性・創造性、自主・自立の精神の涵養
- (5) 平野五校園共同研究の推進
- (6) 教育実習の指導充実、五校園連携実習の実施
- (7) 保護者・地域との連携強化。中学校等への情報発信

6 附属高等学校平野校舎 平成30年度重点目標(評価項目)、具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成
学校教育計画	(1)小規模校の特徴をいかした教科指導の充実と生徒の学力の向上 (2)SGHカリキュラムにおける指導の充実と成果の発信(教科・総合的な学習の時間・特別活動をととした課題解決力等の育成) (3)進路指導の充実による将来に向けた夢と志の醸成 (4)生徒会活動・学校行事等をととした協調性・創造性、自主・自立の精神の涵養

年度重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (* 評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)教科指導の 充実と生徒の学 の向上	授業研究と授業改善 (主体的・対話的で深い 学び等に向けた指導法 の教員研修・授業研究 の推進と成果の発信) * 校内研究授業 3 教科 以上。2/3 の教員が授 業改善実施をめざす。	・全教科で取組が進められ、82%の教員が授業・指導法の 改善に取り組んだ(教員アンケートの回答)。問づくりの 手法(課題発見)やジグソー法による探究等を授業に導 入する事例が増え、生徒の能動的学習が充実した(生徒 アンケート「自分の考えをまとめたり発表したりする機会 がある」82%)。 ・5教科、6名の教員が、課題解決力等の育成をめざした 研究授業を自主的に行い、校内外の教員に公開した。	・授業改善を組織的に継続 するとともに、管理職・教 員による授業見学と相互 評価の機会をふやす。	A	・授業で、考えをまとめ発表 する機会が多く、課題解決 型学習など工夫された事 例が多い。 ・引き続き、管理職や教員間 の授業見学や、授業法の 教員研修等を行うとよい。	A	・教員研修と授業観察を引 き続き行う。 ・生徒アンケート「教員が 授業を工夫している」の への肯定的回答がさらに 増えるようにする。
(2)SGHカリキ ュラムにおける 指導の充実と成 果の発信(教科・総合的な学 習の時間・特別 活動をととした 課題解決力等 の育成)	①1、2年生「総合的な学 習の時間」における課 題研究の指導の充実 * 課題研究発表会での 研究内容の肯定的評価 75%以上をめざす。	①・課題研究の指導法の定着と、三角ロジックにもとづく指 導により、論理的に構成された研究が増加した(SGH 運 営指導委員会の評価)。課題研究発表会での研究内容 の肯定的評価は88%であった。教科・総合・特別活動をと おして課題解決力・コミュニケーション力・多文化理解力 等の育成に教員全員(100%)が取り組んでいる(教員アン ケートの回答)。PROGテストの結果では、3年間で生徒 のコンピテンシーが大きく伸張した(特に親和力、協調 力、課題発見力、計画立案力等)。	①課題研究の指導は、これ までの方法をさらに改善し 活用する。	A	①昨年度の課題を踏まえた 改善が進められ、生徒の 研究内容に成果が現れて いる。課題研究の指導法 の研究成果は、他の学校 にも普及させるべきである (学校評議員会及び SGH 運営指導委員会)。	A	①本年度の成果と課題を 明確にして共有し、課題 研究の指導についてさら に改善していく。

	<p>②研修旅行(タイ及びカンボジア)の充実 * 研修旅行の生徒満足度 90%以上をめざす。</p> <p>③英語科授業における「1年留学生交流」、「2年即興型英語ディベート」</p> <p>④グローバル人材育成に関わる評価と開発 * GPAT の大学生試行の実施をめざす。</p> <p>⑤探究的な学習の指導法の発信 * 書籍化をめざす。</p>	<p>②研修旅行での連携先が7カ所に増え、課題研究に反映させる生徒数が昨年の約2倍に増えた。バンコクの協定校とのディスカッションも充実した。生徒の満足度は、研修旅行全体について94%、協定校との交流について97%</p> <p>③「1年留学生交流」は双方活発に行われ、有効であった。「2年即興型英語ディベート」(年間12回)は、生徒の意識が向上した(「時事問題等について英語で話すことができる」と自己評価する生徒が年度当初45%から年度末78%)。</p> <p>④本校が大阪教育大学と協働して開発するグローバル人材の資質能力を測る行動認知テスト(GPAT)が2つの大学で試行され、問題の妥当性が検証できた。</p> <p>⑤本校の課題研究の指導法をまとめた書籍が完成した。また、その研修会を全国学校関係者対象に開催し、参加者から高い評価を得た(参加者対象アンケート「研修会の内容が充実」についての肯定的意見100%)</p>	<p>②協定校や視察先との連絡を密にしながら、来年度の研修旅行等でも同様の活動を行う。</p> <p>③ESS や英語ディベート等に興味関心の高い生徒がさらに活動できる環境を整備する。</p> <p>④本校の評価開発グループと大阪教育大学アセスメントグループとの連携を強め、生徒の変容測定、グローバル人材の新たな評価指標の開発を継続させる。</p>		<p>②海外研修と課題研究が相乗効果を生んでおり適切。</p> <p>③～⑤評価や指導法の開発が計画どおり進んでおり、成果をあげている。</p>	<p>②事前学習を充実させ、視察や高校交流を一層充実させる。</p> <p>③ESS、英語ディベート等の活動を支援する。</p> <p>④引き続き GPAT の問題数確保と検証に取り組む。</p> <p>⑤書籍の配布等により成果を普及させる。</p>	
(3) 進路指導の充実による将来に向けた夢と志の醸成	<p>進路研究部でこれまでの取組を評価し、各学年と連携しながら、ガイダンス機能を充実させる。</p>	<p>これまでの取組を検証し、「卒業生による進路ガイダンス」の方法を改善し、生徒個々の希望進路に応じたガイダンスを実施することができた。また、卒業生が受験体験を話す機会も新たに作り、いずれも有効であった。</p>	<p>進路指導部を中心に効果検証を継続し、ガイダンス機能の一層の充実を図る。</p>	B	<p>生徒・保護者への情報提供を引き続き計画的に行ってほしい。</p>	B	<p>生徒アンケート「学校では進路について考える機会がある」の肯定的意見を10point増加させる。</p>
(4) 生徒会活動・学校行事等とおした協調性・創造性、自主・自立の精神の涵養	<p>①学校行事を通し生徒の自主性や行事運営力の伸張を図る。</p> <p>②運動部の活動に関する検討を行う。</p>	<p>①生徒の行事運営に対して生徒指導部及び全教員でサポートした。生徒による行事運営も円滑に実施された。</p> <p>生徒アンケート「生徒はルールをよく守っている」の肯定的意見が5年連続増加している。</p> <p>②スポーツ庁「運動部活動改革プラン」に採択され、地域と連携した部活動について検討し、実践した。</p>	<p>①生徒の自主的な取組のためにも、生徒間の引継ぎを一層重視させ、取り組ませていく必要がある。</p>	A	<p>①生徒が学校行事に自主的に関わり、主体的に運営している。</p> <p>②試行の結果から、部活動の改革に資する成果が得られている。</p>	B	<p>①生徒間の引き継ぎなど、いくつかの課題について継続して検討していく。</p> <p>②部活動改革プランへの取組は、来年度も継続し、成果を整理する。</p>
学校教育目標	<p>学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成</p>						
学校教育計画	<p>(5) 平野五校園共同研究の推進 (6) 教育実習の指導充実、五校園連携実習の実施 (7) 保護者・地域との連携強化。中学校等への情報発信</p>						

(5)平野五校 園共同研究の 推進	平野地区五校園共同研 究の推進 * 主体性に関する評価 指標を作成する。	・これまでの五校園共同研究の取組を、モデル事例とし て全国国立大学附属学校園の協議会において発表し た。 ・五校園研究集会の検討をもとに、評価指標を予定ど おり作成した。また、11月に共同研究発表会を開催し、本 校での取組を発表した。	今後の計画を踏まえなが ら、大阪教育大学との連携 のもとで、ルーブリックの 作成と活用を進めていく。	B	特になし	A	研究の成果を発信でき るよう工夫していく。
(6)教育実習 の指導充実、 五校園連携実 習の実施	①教科指導、クラス指導 における実習生への指 導充実 ②五校園連携実習の実 施	①・教科担当、クラス担当の教員からの指導のほか、実習 生間のミーティングによる指導を実施した。 ・本校より提案したディスカッションを導入した実習生指導 について、デジタルコンテンツが完成し活用されるようにな った。 ②平野五校園での相互実習を行い、実習生から高い評価 を得た。	①特になし ②昨年度の課題を踏まえ、 実習生の意識変化につ いて調査した。	A	②実習生に有益であり、成 果と課題を整理して来年 度も継続実施してほしい。	B	①制作されたデジタルコン テンツを実習生指導に活 用するとともに、新規の 内容のコンテンツの制作 に取り組む。
(7)保護者・地 域との連携強 化。中学校等 への情報発信	①ホームページ、一斉メ ール連絡を用いた保護 者への学校情報の提供 ②地域連絡協議会や ひらの BOSAI キャラバ ンの開催 ③中学生・教育関係者等 に対する教育内容・入 試情報の発信	①・暴風雨や地震による休校等について、一斉メールを活 用した情報提供に努めた。 ・保護者への配布物や学校での出来事などについて、ホ ームページを活用して情報発信した。 ②・地域と平野五校園との連絡協議会を開催し、地域と学 校との情報共有や意見交換を行い、成果を得た。 ・ひらの BOSAI キャラバンを3月に開催し、多くの地域の 方々の参加を得た。 ③・昨年度の課題を踏まえ、各中学校への説明を早期化し た。大阪府の説明会等に参加し広報の機会を増やした。 ・学校説明会等への参加者数が増加した。	①登下校時の地震に際する 情報の発信・収集及び、一 斉メール連絡不通時の対 応を検討する。 ②ひらの BOSAI キャラバ ンについて、継続的な開催 に向けた運営を模索する。 ③特になし	A	・学校から保護者への情報 提供をさらにきめ細かくし てほしい。	A	①登下校時の地震に対す る情報の発信・収集及 び、一斉メール連絡不通 時の対応を検討する。 ②ひらの BOSAI キャラバ ンに生徒が参加しやす い仕組みを検討する。